

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「安心」「信頼」「満足」が事業所独自の理念です。安心した日常生活がおくれる様、信頼あるスタッフで満足のいく介護を提供します。	○	地域の方々と積極的にふれあいながら認知症高齢者への理解を求め、町内会等に参加させて戴いている。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	一日2回の申し送り時に管理者と職員で声をあげ、理念を読みあげている	○	職員一人ひとりの一日の目標を決め、達成できたかの確認をすると共に、どうすれば達成できるかを常に話合っていく
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族会議、町内会行事への参加、運営推進会議などで理解をもとめる話合いの場を設ける	○	家族や地域の方々にホーム行事への参加を積極的に呼びかける
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	当ホームは町内会の組長を務めており、利用者様、職員と共に月2回発行されている市政だよりの配布、町内会費の集金、回覧板の管理等を行っているため、近隣の人との関係は綿密である		ホームの畑でできた野菜を近隣の方へおすそわけしたりしている。近隣のかたも又、自宅でできた野菜を持ってホームへ訪ねてきたりと気兼ねなく出入りできるような、雰囲気を作っている。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で開催される「町美化クリーン作戦」、神社の掃除、避難訓練、体育祭など積極的に取り組んでいる	○	家族や地域の方々にホーム行事への参加を積極的に呼びかける
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議にて地域の高齢者の支援活動を行う為の相談窓口を設けている		すでに取り組んだ内容では、ホーム近辺の踏み切りで座り込んでいた認知症のあるお年寄りを住民の方が発見し当ホームで対応できないかとの事で相談有、すぐに当ホームにて保護、警察、住民、職員との連携により無事、自宅へ帰る

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価のねらいや活用方法を全職員が理解するよう努めている	○	前回の評価結果や改善計画シートを点検し、運営者、管理者、職員で話し合い、改善のための実施に取り組んでいる
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者やサービスの実施、評価への取り組み状況等について話し合っている。会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービスの向上に活かせるよう努めている	○	運営推進会議の回数を重ねていくたびに、メンバーの意見等も積極的になってきた。評価の取り組みや評価後の改善への取り組みについて具体的に話し合っていくことが必要である
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、共に取り組んでいる		積極的な情報提供と共有、課題解決に向けた協働を行っている
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者、職員は地域福祉権利擁護事業、成年後見制度の理解に努めている	○	運営推進会議、グループホーム会議等で議題にとりあげ、話しあうと共に必要と思われる利用者、家族等に情報提供している
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回行われるグループホーム会議にて、「身体拘束委員会」を設置し、会議の中で話し合っている	○	介護記録の周知徹底に努める。又、利用者の変化等を観察しながら虐待防止に努める。
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には「契約書」「重要事項説明書」の内容に沿って十分な説明の上、理解・納得を図っている。又、家族が不安や疑問等を十分に表せる様、働きかけている	○	契約時に限らず、常に利用者の立場になって考え、将来のことについて、十分に話し合う機会を設けることに努める

福岡県 グループホームなかよし 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が日常のサービス等に関する意見や思いを管理者や職員に表せるよう取り組んでいる	○	事業所側からばかりだけでなく介護相談の訪問を受け入れるなど積極的に取り組んでいく
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回発行している「なかよし新聞」、家族会議などで利用者の暮らしぶりや、個別に身体状況などを家族等に報告している。又、来訪時には声かけをし、その都度状況報告をすると共に、金銭出納帳を明示し、使途の確認や報告を行っている		家族等が仕事などで、定期的に来訪できない時は電話、手紙等を利用し、状況報告を行う
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会議を設け、意見、不満、苦情を安心して表せる状況を作っている。又、介護計画にも取り入れられ、管理者、職員と共に取り組んでいる	○	家族等が仕事などで、定期的に来訪できない時は電話、手紙等を利用し、状況報告を行う
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回開催されるグループホーム会議にて職員の意見を十分に聴き、みんなで取り組んでいく体制をとっている。また「改善提案ノート」を設置し自由にその意見を書き出せるようにしている。又、必要であればその都度会議を開き、働く意欲の向上に努めている。		運営に関する事、利用者の受け入れなど現場の職員の意見を十分に取り入れられ、反映させている
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	24時間365日、本人を支えるローテーションを組んでいる。又、勤務シフト上も無理のない体制をとっている。		急な職員の休みの時など、職員による応援体制ができている
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむを得ず職員が交代する場合は利用者へのダメージを最小限にするための検討を行い、関係者やケアの継続のための取り組みを行っている		利用者に対して気の合う担当者を決めており、他の職員へもスムーズに移行できるように配慮している

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	あらゆる活動においてすべての基本的人権を尊重し差別や偏見をなくすと共に職員の多様な個性を尊重し、その能力を十分に発揮できる公正な職場環境づくりと、一人ひとりのキャリアを見据えた人事・人材育成に努めている		採用選考では、本人に責のない事項による偏見をなくし、あくまで本人の能力と将来性に基準をおいている
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	高齢者に関するあらゆる人権問題については教育・啓発活動にとりこんでいるが、その他(同和問題、こども、外国人)に関する人権問題については今後、取り組んでいくよう努める	○	取り組んでいない人権問題については、勉強会等を開催するなどして取り組んでいく
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全ての職員が地域密着型サービスの従事者として質を向上させていけるよう努めている		日常的に学ぶことを推進し、パートの職員にもチームの一員として研修・会議等参加の機会を設けている
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者同士協働しながら質の向上に取り組んでいる		相互訪問等の活動を通じてサービスの質を向上させていく取り組みをしている
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員がストレスをためないよう、組織的、継続的にストレスを軽減するための取り組みをしている		職員の話をつよく聞けるよう利用者と離れ一息いれる居場所を確保している
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の日ごろの努力や実績、勤務状況等を把握し向上心を持って働けるような配慮や対応をしている	○	現場での職員の表情、行動などを観察し、疲労感をためないよう健康状態にも気を配りながら改善に努めていく

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から利用に至るまでの期間は本人に直接会い、話を聴き、思いや不安に思っていることを受け止め、安心してもらう努力をしている		本人が入院中であれば病院へ向かい、婦長、ソーシャルワーカーに同席して戴き、話しやすい環境づくりに努めている
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談をする家族の立場になって、今何に困っているか、不安に思っていることの話をも十分に聴き、理解しながら、家族自身を受け止めていくことに努力している	○	家族の状況を十分に把握し信頼関係を築くよう努めていく。又、家族と話す時間を増やし、話しやすい環境づくりに努める
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際には、本人と家族が必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている		医療機関、地域包括支援センター、地域のケアマネジャー等と連携しながら必要に応じて他のサービス機関につなぐよう努めている
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族等が安心し、納得できる様、体験入居(無料)を実施し、徐々に馴染んでいただける環境づくりをしながら工夫している		体験中に本人、家族等が、職員や他の利用者に馴染んで戴ける様、段階的な支援の場を設けている
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者様は「人生の先輩であり、毎日が学ぶばかりである」職員全員が「介護、支援をさせて戴いている」という気持ちを忘れず共に暮らす同士として思いを共感し、理解させて戴くよう、日々、努めている		一人の利用者様が体調を崩し、部屋で安静しているときなど、職員と他の利用者様と一緒に元気になるような声掛けや本人が好む食事づくりに励むなどの場面がみられる
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	来訪時など、ゆっくり話しができる環境づくりをし、情報交換を密に行うと共に家族の要望等に耳を傾けるなど努力をしている	○	なかなか来訪できない家族等については、電話などで情報交換を行い、職員と共に本人を支え合い、一緒になって考えていけるよう取り組んでいく

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族との関係が良い方向にいくよう職員全員が話し合いの場を設け、支援策を講じている	○	疎遠となっている家族等については修復にむけて具体的な取り組みをしている 例：週末には必ず、家族等が交代で本人へ電話連絡をするなど
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が入居するまで通っていた場所や馴染みのある人たちの関係は途切れないよう、支援している		友人同士の集まりの場などに積極的に出かけるなどの支援を行っている
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	利用者同士の仲の良し悪しに配慮し、利用者が孤立しないよう配慮している。又、世話役の人うまく力を発揮して戴き、他の利用者の気持ちを引き上げる場面などを作っている		利用者同士が食事時間、体操時間を教え合う。お互いの部屋を行き来できるように職員が中に入りコミュニケーションをとるなど過ごしやすい環境をとっている
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用（契約）が終了しても、家族等の相談や支援をさせて戴いている。又、ホームで毎月発行している新聞等を自宅へ送るなどして関わりを断ち切らないよう努めている	○	長期、継続的なフォローをしていくよう努めていく
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりに対してゆっくり時間をとり、暮らし方の希望、意向の把握に努めている。又、把握が困難な利用者については担当職員がいる為、日々の生活記録を元に把握するよう努めている		日々の行動や表情により、担当職員がゆっくり話しをする時間を設け、何をしたいか、誰に会いたいかを理解するように努めそれを実行に移せるよう努力している
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者、家族等とのコミュニケーションを図るなかで本人の今までの生活ぶりを聞きだし本人の全体像を知る取り組みをおこなっている	○	疎遠になっている家族等には積極的に情報提供を呼びかけ本人の全体像の取り組みに勤める

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの一日の生活リズム（食事や睡眠、排泄の時間、生活習慣、一日の体調の変化）を把握している		家族等による「できない」という情報にとらわれず、本人のできる力、わかる力を暮らしの中で発見していく事に努めている
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	一人ひとりのその時点にあった具体的な介護計画を作成している		本人、家族、担当者を交え、本人がより良く暮らす支援として何が必要か、家族の意向も大切にしながら話し合っている
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間にとらわれず、変化に応じて本人、家族、担当者と話し合い介護計画の見直しを行っている		本人、家族、担当者だけの話し合いで終わらせるのではなく、地域包括支援センターの担当者とも話し合い、本人の介護計画見直しに反映させている
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの記録を漠然と記録するだけでなく、本人の言葉の記録を重視し、小さな変化にも職員が気づくよう努めるとともに、介護計画にも反映させている		職員の気づいた情報など、申し送り時には必ず伝達できるようになっている
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	独自に実施している自主サービスを利用しながら、自宅での生活が困難になった方の支援を行っている	○	デイサービス、ショートステイの支援を積極的におこなうよう努めていく
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域生活を継続していくために民生委員やボランティアの存在を把握し、協働している		地域の資源を活用できるように普段から連携をとっている

福岡県 グループホームなかよし 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて地域のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを受けられるよう支援している	○	月に一度、外部のケアマネージャーとの情報交換を行うなど、連携に努めている
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターと協働しながら、本人本位の支援に勤めている		身寄りがいない利用者など、解決困難な状況等に応じて、地域包括支援センターと連携しながら、個別支援を行っている
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	本人が馴染みの医師による継続的な医療を受けられるよう、又、状況に応じて本人や家族が希望する医師による医療を受けられるように支援している		入居希望時に通院方法などを本人、家族等と話し合い、納得の上希望する医師による医療を受けられるようにしている
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的に受診をうけながら、医師による助言、家族、職員による相談をして戴いている		看護師、精神保健士、ソーシャルワーカーなど連携をとり、小さなこと(薬、心身状況等)でも相談させて戴き、助言をうけている
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	利用者の普段の状態や個別の状況をよく知っている看護師が、気軽に相談しながら、健康管理や医療的な支援を行っている		往診時、看護師が、なにげない会話のなかで身体の状態などの把握に努めている。又、職員の判断対処の力の向上にもつながっている
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院する際は、本人のストレスや負担を軽減する為に、家族と相談しながら医療機関に対して本人に関する情報提供やケアについての話し合いを行っている		早期退院に向けた、退院計画を病院関係者、本人、家族と話し合いスムーズな退院につながるよう支援している

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所当時から本人家族等に重度化した場合や終末期のあり方について話しあっている。又、かかりつけ医の助言を受けながら繰り返し話し合い職員全員で方針を共有している	○	本人や家族の意向、本人にとってどうあったらよいのかを医療関係者を含めて話し合いの場を増やしていく事に努めていく
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	該当者はいないが、そうした場合に備えて関係者間で話し合いや連携体制に取り組んでいる	○	重度や終末期の利用者を支える為にチームの連携、職員の力量、諸条件等を備え、利用者への対応準備に取り組んでいくよう努める
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り住む先のケア関係者に対して必要な情報交換を行い、利用者の環境や暮らし方の変化によるダメージが最小となるよう取り組んでいる		遠方に移り住む利用者に対しては独自のサービスを活かして安全に移り住める事ができるよう支援している
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りを尊重しプライバシーの確保に徹底している		人前であからさまに介護するのではなく、目立たずさりげない対応をこころがけている。又、職員全員が、個人情報保護法の理解に努め、秘密保持の徹底を図っている
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々の生活の中でひとり一人の力に合わせて、利用者自身が決定する場面を具体的に作っている		利用者が言葉では十分に意思表示ができない場合でも、表情や全身での反応をキャッチし本人の希望や好みが見守りながら働きかけている
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の都合や決まりごとに利用者を含めるのではなく、職員が利用者に合わせていく姿勢に取り組んでいる	○	事業所の業務スケジュールに利用者の生活が合わされないよう努めていくと共に利用者のペースを大切に、見守りながら一緒に生活ができるよう取り組んでいく

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ひとり一人の個性を大事にし、本人の意向に沿った支援が行われている		本人の髪型や服装など職員と一緒に決め、本人が納得いくよう支援している
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立づくりから調理、片付けに至るまで、利用者の意思や気持ちを大事にし食事一連の作業を利用者と共に行っている		利用者が得意とする料理をみんなで教わりながら食事が楽しみなものになるよう支援している
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者が自宅と同様に、馴染みの嗜好品を楽しめるよう日常生活に取り入れている		嗜好品を取り入れる事により、本人以外の利用者に迷惑がかからないように、個別に支援できる体制をとっている
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	オムツの使用を減らし、可能な限りトイレで用を足す支援や気持ちよく排泄するための工夫をしている		一人一人の力にあわせて日中はショーツ、夜間はリハビリショーツに替えるなどの工夫をし、本人の自信の回復に努めている
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	事業所がきめた曜日、時間帯になっているが、利用者に無理強いをするのでは無く、一人ひとりの意向を大切に、希望に沿った入浴ができるよう支援している		夏季などは汗をかきやすいため常時入浴ができるよう支援している
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の生活習慣を把握し関係者等で検討しながら必要な休息や睡眠がとれるよう支援している		眠れない利用者には数日間の活動や出来事を探り、原因を極めて、その人本来のリズムを取り戻せるよう取り組んでいる。又、必要と思われる場合は医療関係者へ相談し、助言を受けている

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	潜在している記憶やできる力を最大限活かせる様、一人ひとりにあった役割や楽しみの支援を行っている		できる事、できない事の見極めを行い、その人に合った役割を支援している
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者が日常の暮らしのなかで、その人の希望や力に応じて、使えるように支援している		家族と相談しながら、利用者一人ひとりの力や希望に合わせて本人の金銭管理の支援をしている。又、買い物に行くときには本人が支払えるよう支援している
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に外出できるよう、個別支援を行っている		本人が気持ちよく過ごせる様、歩行可能な方、困難な方関係なく、車や車椅子を利用して外出支援を行っている
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一人ひとりの思いや願いが叶えられるよう、利用者、家族と相談し、協力を得ながら実現に向けた支援を行っている		本人の思いに沿って、美術館や懐かしい場所など本人の行きたい場所への外出支援を行っている
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一人ひとりの手紙や電話の習慣、希望、有する力に応じて、外部との支援を行っている		外部からの手紙や電話を職員一同、大歓迎し、本人の意欲(手紙を書くこと、電話にできる事)につなげている。又、内容が漏れないよう気を配っている
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	本人の馴染みの人たちが気軽に訪ねやすく、居心地よく過ごせる様工夫している		馴染みの人たちが来訪した時は職員一同、笑顔で迎えるなど明いふいん気づくりを心がけている。又、居心地よく過ごせる様、湯茶等の用意、スペースの工夫をしている

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者及び全職員が身体拘束の内容とその弊害を認識し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる		身体拘束委員会を設置し、月に一度行われるグループホーム会議にて話し合いが行われる。又、運営推進会議にて、地域の方々と身体拘束について話しあいがおこなわれる
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全員が日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる		出て行く気配を見落とさないよう見守り、声かけを徹底している
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜共に職員が見守りやすい位置におり、利用者の様子を察知し、安全に配慮している		リビングは利用者の状況を最も確認しやすい位置である為、必ず職員が一名配置されている
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況にに合わせて、注意が必要な物品は何かを職員で把握し、管理方法の取り組みをおこなっている	○	管理が過剰にならないよう十分な検討が必要である
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故や火災等を未然に防ぐための方策や一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険を検討し、事故防止に努めている		救命処置、火災訓練を定期的に行い、事故防止の方法を学び、共有、徹底している
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者の身体状態の急変や事故発生時に備え定期的に訓練を行っている		救命処置、火災訓練を定期的に行い、事故防止の方法を学び、共有、徹底している

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	いざという時に慌てず確実な避難誘導ができるように備えていくと共に、日ごろより、地域の人々の協力を得られるよう働きかけている		事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加、協力を得ながら避難訓練等を定期的実施している。
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	一人ひとりに予測されるリスクを家族等と話し合い、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている		起こり得るリスクについては、個別的に定期的な見直しを行っている
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	変化や異常の発見に努めていくと共に、気づいた際には速やかに情報を共有し、早期対応に努めている		バイタルチェックだけに頼らず、常に顔色や様子に注意し、変化があった場合は対応について報告し、医療等につなげている
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用する薬の目的や副作用、用途や用量について理解し、飲み忘れや誤薬を防ぐための取り組みを行っている		薬担当者を決めており、内容が変わる時は全職員へ薬の目的や副作用、用法や用量についての説明をおこなっている
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個々の便秘の原因を探り、家族とも相談しながら一人ひとりに応じた自然排便を促すための工夫をしている		薬にむやみに頼らず食事、おやつの食材メニューの工夫をしている
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	本人の習慣や有する力を活かしながら食後のうがいや口の中の手入れの支援をしている		一人ひとりの習慣や意向を踏まえ、個別に働きかけをおこなっている。又、入れ歯の管理、手入れを確実にできるように支援している

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりが暮らし全体を通して必要な食事や水分が取れるように支援している		一人ひとりの一日の栄養摂取量や水分量を把握すると共に、利用者の嗜好を把握し、献立に取り入れながら、栄養バランスにも配慮している
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する対応の取り決めがあり、実行している		インフルエンザ、肺炎球菌ワクチンの接種を行っている。又、全職員がこれらについて学ぶ機会を持ち、理解に努めている
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、調理用具等の清潔や管理方法について取り決めがあり、全職員が実行している		衛生管理のマニュアルを作成し、いつでも確認出来る様、目の届く場所に掲示している
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	利用者や家族、近隣者が玄関や建物のまわりに違和感や威圧感を感じさせないように配慮している		玄関まわりに花をおくなどして明るいイメージに心がけている
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は利用者にとって居心地の良いものになっている		共用生活空間には吹き抜けの天井が設けられており、開放感があり居心地よく過ごせる様工夫している。又、浴室に設けられた庭園は利用者にとって人気である
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間で、一人で過ごせるような居場所作りの工夫をしている		リビングにはソファを設け、玄関先には気のあった利用者同士で過ごせる様、長いすを設置している

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の個室には馴染みのものが置いてあり、居心地の良いものになっている		仏壇、人形、観葉植物、以前使用していた仕事道具など、馴染みのあるものを置く事で、居心地の良いものになっている
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気のよどみがないよう換気に努め、温度調整にも気を配っている		常に換気を行い、リビングには室温、湿度計を設置し、できるだけ自然環境に近い換気、空調の管理に努めている
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部一人ひとりの身体機能を活かして、安全な生活が送れるよう工夫している		玄関からリビングへ移動しやすいよう、イスの設置、整容、更衣等で疲れないよう、洗面所横へイスを設置するなどの工夫がされている
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりのわかる力を活かして、混乱を防ぐ工夫をしている		スウェーデンの心理学を用いたグループホームの建物になっており、混乱を防ぐための工夫がされている
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	利用者の力を活かす為の作業や楽しみの方ができるよう改築予定である	○	畑を広げたり、花をたくさん植えられる様にしていこう工夫に取り組んでいる

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

*月に一度、外出の日を設け、入居者2名を一人のスタッフが付き添い、買い物や外食に同行し、地域社会とのふれあいを体感して頂いています。ホームの南側に菜園があり、入居者と共に、苗の植付け、草取り、収穫をし、食卓にのぼっています。真夏以外は、ホームの周辺を20～30分かけ、車椅子の方も一緒に3～4人ずつ散歩し、季節の移り変わりや近隣の方たちとの挨拶や雑談で地域とのふれあいをまっています。